日本文化人類学会誌『文化人類学』掲載原稿に関する査読規程

（目的）
日本文化人類学会は、学会誌『文化人類学』に掲載される「論文」、「研究ノート」、「資料と通信」等が、学術研究にふさわしい高度な水準を保ちうるように、査読の制度をおく。本制度の運営については、編集委員会が責任を負うものとする。

（査読者）
第2条 編集委員会は、投稿された「論文」、「研究ノート」、「資料と通信」等（以下論文等という）1編につき原則として2名以上の査読者を選定し、査読を依頼する。

（査読者の匿名性）
第3条 査読者は匿名とする。編集委員会は査読者名を公開しない。

（査読方法）
第4条 査読者は、査読対象論文等に対して、次の各号について査読を依頼する。

［査読事項］
I 内容
1）文化人類学・民族学研究としての主題の妥当性
2）文化人類学・民族学の寄与度
3）素材・資料の妥当性
4）資料への提示方法
5）結論の提示方法
6）論理展開の明確さ
7）内容の正確さ
8）内容の完成度
9）原稿区分（論文、研究ノート、資料と通信等）の適切さ

II 表現
1）表題の適切さ
2）文章の表現力
3）文章の読みやすさ

III 形式
1）章・節など全体構成の適切さ
2）原稿枚数の適切さ

IV 図表等
1）図表の必要性
2）図表の作成・説明の適切さ

V 文献
1）参照文献の妥当性
2）参照文献引用の仕方の適切さ

VI 要旨（論文の場合は日本語要旨および英文要旨、研究ノートの場合は英文要旨）
1）論文の主旨表現の妥当性
2）査読者は、前項の評価に基づいて、総合的判断として、次の4段階の判定を行う。

［判定］
I 査読可（再査査不要）
1）このまま掲載可
2）指摘箇所訂正可（技術的でマイナスな訂正に限る）
II 訂正後再査査
1）小規模の書き直しを必要とする
2）中規模の書き直しを必要とする
3）大幅な書き換えを必要とする
4）投稿区分の変更を必要とする
III 査読否
1）既発表
2）文化人類学会誌として不適当
3）内容不可
4）その他

IV 判定不能
1）一部他分野の専門家の判断を必要とする
2）その他
3）査読者は、総合評価および判定について、編集委員会に対して意見を述べなければならない。
4）編集委員会は、査読結果を投稿者に通知する。

（掲載原稿の決定）
第5条 編集委員会は、査読者による査読結果を十分に勘酌して、掲載原稿を決定しなければならない。

2 描載原稿の決定は、編集委員の過半数の賛成によって行う。

（規定の改正）
第6条 本規定の改正は、日本文化人類学会理事会において、出席者の過半数の賛成をもって承認されたときに成立し、可否両数のときは議長の決するところによる。

付則
この規定は2004年4月1日より施行する。